

波通孝氏, 浜中義憲氏, 近藤伸一氏に御礼を申し上げる。

【採集記録】

淡路市(津名町)佐野 1 ♂ 1958 登日邦明

淡路市(津名町)志筑明神 2exs 1964 奥野修久

たつの市新宮町光都 1丁目 1ex (撮影) 23. V. 2008 清水哲哉

赤穂市上飯屋 2 幼虫 8- VI -2014 広畑政巳

○参考文献

広畑政巳・近藤伸一, 2007. 兵庫県の蝶. 岩峰社, 東京
難波通孝, 2009. 岡山県におけるミカドアゲハの分布
拡大 月刊むし (457): 25-31

朝日新聞 2008年6月25日朝刊 28ページ

(Masami HIROHATA 姫路市)

ムラサキツバメの再来

久保 弘幸

ムラサキツバメ (*Narathura bazalus*) は, 暖地性ではあるが, 特に珍種というわけではない。『兵庫県の蝶』(広畑・近藤 2007) によれば, 兵庫県下では播磨の瀬戸内沿岸を中心とした分布域をもっている。私の住む明石市内の団地(明石市大久保町)でも, 2008年ごろまでは, マテバシイの若芽で幼虫を普通に見ることができたし, 越冬中の成虫も観察できた。ところがその後2015年に至るまで, 幼虫も成虫も見られなくなってしまった。

筆者の観察はごく部分的なものであり, 「まったくいなくなった」のかどうかは不明であるが, 少なくとも, それまであたりまえに見られたものが見られなくなった, すなわち極端に減少したのは確かである。

ところが今年10月になって, 団地内のマテバシイで10頭余の幼虫を発見した。8年の空白期間があったわけである。1人の観察であるから, 成虫については見落としている部分もあるかもしれないが, 幼虫を見落とす可能性は低い。今回の発生は, 成虫が近隣の生息地から新たに飛来した可能性が高い。暖地から分布を拡大しつつある蝶であるので, 成虫の飛来も不思議とするにはあたらぬが, 一方で, 特に団地内の環境が変化したわけでも, マテバシイの数が減ったわけでもないのに「なぜ, いなくなったのか」については不明のままである。

同じくこの10月には, 播磨町大中でも, ムラサキツバメの幼虫1を確認した。この場所は広い公園であり, マテバシイも数多く植えられている。2009年以来観察を続けているが, 昨年まではムラサキツバメの幼虫は, 一度も見えていないし, 公園内の環境変化もない。

わずか2箇所での観察であるが, こうした状況を見

ると, 今年, 東播磨付近でムラサキツバメの成虫が拡散した可能性を考えてもよいかもしれない。それはどのような条件によるものなのだろうか。気温や風などの気象条件か, あるいはまったくの偶発的事象か。ムラサキツバメの消滅と再来には, わからない点が残されている。

会員のみなさんも, ご自宅の近所でマテバシイとムラサキツバメを観察していただければと思う。12月でも陽射しのある日には, 食樹の近くで日光浴をする成虫が見られる。

○参考文献

広畑政巳・近藤伸一, 2007. 兵庫県の蝶. 岩峰社, 東京

(Hiroyuki KUBO 兵庫県明石市
兵庫ウスイロヒョウモンモドキを守る会)

ムモンコバネ(コバネガ科)の兵庫県からの記録

船本 大智

コバネガ科は現生の鱗翅目では最も原始的な科であり, 成虫が機能的な大顎を持つ(橋本, 2011)。日本のコバネガ科は5属17種が知られており(Hashimoto, 2006; 今田, 2015), 兵庫県からはニッポンヒロコバネ *Neomicropteryx nipponensis* Issiki (図1.a) のみが記録されている(阪上, 2015; 吉富ら, 2016)。

ムモンコバネ *Paramartyria immaculatella* Issiki (図1.b) は全国に広く分布する種でありしばしば *Neomicropteryx* 属などと混生するが(Hashimoto, 2006; 橋本, 2013; 今田, 2015), 兵庫県からは知られていなかった。今回, ムモンコバネが兵庫県宍粟市波賀町赤西溪谷から採集されたため報告する。

3 exs(多数目撃), 兵庫県宍粟市波賀町赤西溪谷(標高500m), 14. V. 2016. 船本大智・杉浦真治・山崎一夫 採集. 阪上洗多 保管

採集した場所は, 阪上(2015)がニッポンヒロコバネを記録した地点とほぼ同じである。溪流沿いのスギ林の林縁において, 飛翔あるいは下草に静止している個体を採集した。100mほど離れた地点にはジャゴケ *Conocephalum conicum* (L.) Dumort. が密生した湿潤な崖があり, ジャゴケを食草とする多数のニッポンヒロコバネの成虫が見られた。また, 少数のニッポンヒロコバネがムモンコバネを採集した同一地点においても確認できた。

ムモンコバネは *Neomicropteryx* 属が見られない低標高地にも確認される傾向があるため(吉富ら, 2016), 調査が進むことでムモンコバネは兵庫県内の各地で確認

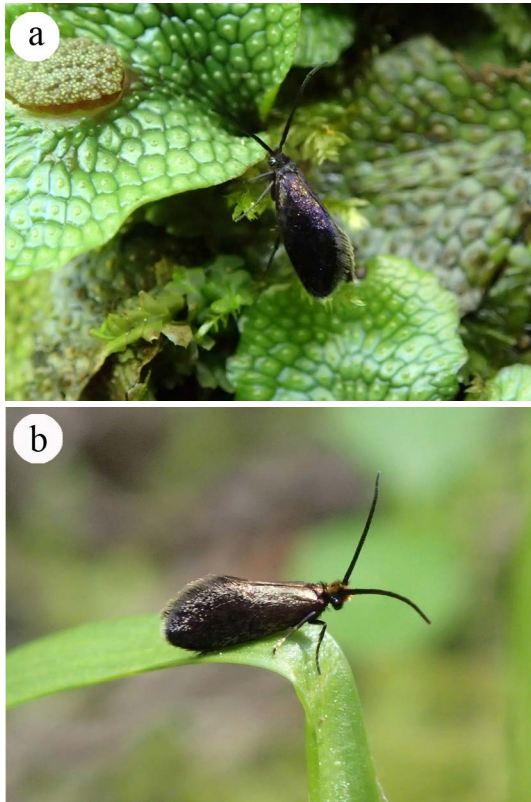


図1. 兵庫県で記録されているコバネガ科. a. ジャゴケ群落で静止するニッポンヒロコバネ. b. 静止するムモンコバネ

できる可能性がある.

阪上洗多氏(神戸大学)には採集したコバネガの同定をしていただいた. また, 杉浦真治氏(神戸大学)には原稿の校閲をしていただいた. お礼を申し上げる.

○参考文献

- Hashimoto, S., 2006. A taxonomic study of the family Micropterigidae (Lepidoptera, Micropterigoidea) of Japan, with the phylogenetic relationships among the Northern Hemisphere genera. Bull. Kitakyushu Mus. Nat. Hist. Hum., Ser. A, 4: 29–109.
- 橋本里志, 2011. コバネガ上科 MICROPTERIGOIDEA. (駒井古実, 吉安裕, 那須義次, 斎藤寿久 編) 日本の鱗翅類一系統と多様性, 66–69. 東海大学出版会
- 橋本里志, 2013. コバネガ科. (広渡俊哉, 那須義次, 坂巻祥孝, 岸田泰則 編) 日本産蛾類標準図鑑 III, 68–74. 学研
- 今田弓女, 2015. 日本列島のコバネガの食草利用の進化和分布形成. 昆虫と自然, 50(14): 14–18.
- 阪上洗多, 2015. ニッポンヒロコバネを兵庫県下で採集. きべりはむし, 37(2): 68.
- 吉富博之・林成多・橋本里志, 2016. 中国地方のコバネガ科. ホシザキグリーン財団研究報告, (19): 221–227.

(Daichi FUNAMOTO 神戸大学農学研究科)

兵庫県からのエゾベニシタバの初記録

徳平 拓朗

兵庫県においてエゾベニシタバ *Catocala nupta* (Linnaeus, 1767) が初めて記録されたので報告する.



1ex., 兵庫県美方郡香美町大笹 ハチ北高原, Alt. 885m, 24.VII.2016, 八木 剛, 灯火採集

本種は北海道, 本州, 四国に分布し, 中部地方以東の山岳地帯の各所で見られるが, 近畿地方以西では散発的な記録しかない(岸田, 2010). 兵庫県の近隣では岡山県において記録されているが, 1984年以降の記録はない(岡山県, 2009). 高島(2004)では兵庫県において今後記録される可能性のある種のひとつとして本種が挙げられており, 兵庫県内での採集記録はこれまで知られていなかった.

本個体は, 人と自然の博物館の中学生向けセミナー「ユース昆虫研究室」において行ったライトトラップで得られたもので, セミナー参加者の徳永 賢士朗君が幕に飛来した本個体を発見したが採集時に逃げられ見失い, 最終的に様子を見に来られた八木氏の毒ビンに収まるところとなったものである. セミナーにおいてライトトラップは同じ場所で3夜行い, 本個体を得られた2日前にはムラサキシタバが7頭飛来するなどより気象条件に恵まれた夜もあったが, セミナーを通して本種が見られたのは24日の夜の1個体のみであった.

標本を作成したのは筆者で, 標本は現在筆者が保管している.

○参考文献

- 岸田泰則(編), 2011. 日本産蛾類標準図鑑 II, 245. 学習研究社.
- 岡山県, 2010. 岡山県版レッドデータブック 2009 絶滅のおそれのある野生生物 動物編, 228. 岡山県環境文化部自然環境課. <http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/sizen/reddatabook/> (2016年11月28日閲覧)